



大会長企画 (海外招聘講演・パネルディスカッション)

メンタルヘルスの社会的要因に立ち向かう：精神保健医療福祉における多様性・公平性・包括性の視点から

座長：千葉理恵 (京都大学) 演者：Edilma Yearwood (Georgetown University) パネリスト：船越明子 (神戸市看護大学) パネリスト：前田直 (長谷川病院/みんなねっと) 指定発言：桐原尚之 (全国「精神病」者集団/京都ユーザーネットワーク)



教育講演1 精神科臨床で「専門性」と「民主性」を両立させるにはどうすればよいのか？

演者：村井俊哉 (京都大学) 座長：内野俊郎 (久留米大学)



教育講演2 リカバリー志向ケアの質をどう測るか：目標志向型ケア指標の開発

演者：Joshua Breslau (RAND Corporation) 座長：宮本有紀 (東京大学)



教育講演3 犯罪被害者への理解と心理社会的支援 —京都犯罪被害者支援センターの取り組みから—

演者：山下俊幸 (洛南病院) 座長：浜垣誠司 (高木神経科医院)



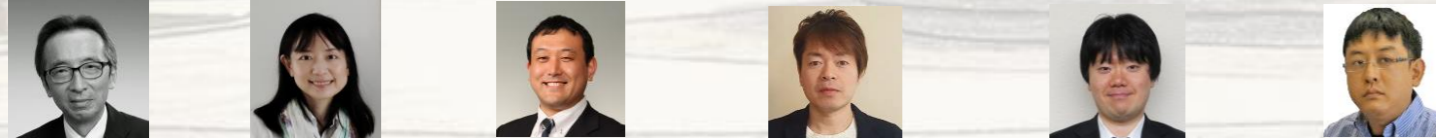
大会シンポジウム1 地域生活支援の課題とこれからの挑戦 ~「地域で暮らす」、「地域で参加する」に向けた多層的な支援の再構築~

座長：稲富宏之 (京都大学) 座長：久永文恵 (精神・神経医療研究センター 精神保健研究所) シンポジスト：高木俊介 (たかぎクリニック) シンポジスト：金井浩一 (相談支援事業所 しぼふぁーれ) シンポジスト：金山達也 (ワンモア豊中)



大会シンポジウム2 災害リスクと共に生きる：精神障害のある人と支援者の経験から考える、健康危機時のメンタルヘルス・心理社会的支援

座長：山下俊幸 (洛南病院) 座長：千葉理恵 (京都大学) シンポジスト：茅野龍馬 (WHO) シンポジスト：須藤康宏 (メンタルクリニックなごみ) シンポジスト：田中浩二 (金沢大学) シンポジスト：石尾大輔 (いまここ親の会)



学会シンポジウム

「2036年、制度はリカバリーを支えられているのか？」 —10年後のリハビリテーションとリカバリーを展望する—

司会：小野彩 (Switch) 司会：樽谷精一郎 (新阿武山病院)
シンポジスト：彼谷哲志 (あすなろ/きいてネット) シンポジスト：佐抜洋平 (あい相談支援センター) シンポジスト：吉田光爾 (東洋大学) シンポジスト：吉見明香 (横浜市立大学附属 市民総合医療センター) 指定討論：山口創生 (精神・神経医療研究センター 精神保健研究所)



※シンポジスト最終調整中

心理教育・家族教室ネットワーク協賛シンポジウム 協働と権利のコンフリクトについて考える：今の精神医療のシステムが、患者・家族・支援者間にもたらすもの ~心理教育を通して~

キーノートスピーチ：伊藤順一郎 (しぼふぁーれ) キーノートスピーチ：後藤雅博 (こころのクリニック ウィズ) リフレクション：佐藤純 (Cafsきょうと)



他、当事者・家族・支援者

SST普及協会協賛シンポジウム (続) 浦河べてるから学ぶ、当事者研究・リカバリーとSSTの役割

座長：向谷地悦子 (浦河べてるの家/訪問看護ステーションマアラ) 座長：安西信雄 (帝京平成大学) 演者：向谷地生良 (動画出演) (浦河べてるの家)



他、浦河べてるのメンバー

研修セミナー (Co-design WG) 既存の制度やサービスで働くピアサポーターがピアであり続けること (仮題)

講師：横山紗亜耶 (東京大学) 座長：岩崎香 (早稲田大学)



研修セミナー (京都大会) ヤングケアラーからの発信：同じ立場の若者に伝えたいこと、支援者に伝えたいこと

座長：蔭山正子 (大阪大学) 座長：松岡美智子 (久留米大学) 演者：平井登成 (CoCoTELI) 演者：坂本拓 (こどもぴあ) 演者：竹田明子 (京都市ユースサービス協会)



公開講座 社会の中の依存症：多様性の時代の精神科リハビリテーションの視点から

演者：松本俊彦 (精神・神経医療研究センター 精神保健研究所) 経験者からのメッセージ：榎原節子 (京都マック) 座長：市来真彦 (東京医科大学)



ランチョンセミナー (京都大会) 京大式障害者雇用：障害開示を前提とした「合意的配慮」の考え方

演者：濱野康子 (京都大学) 演者：平山聡 (京都大学) 座長：三井督子 (京都大学)



他にも、研修セミナー(研修委員会)、中高生サミット、ランチョンセミナーなどを予定しています。登壇者の所属は2026年5月時点です。